

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (ものづくり・地域産業コース)		訪問国	アメリカ合衆国	
学校名	科学技術高校	氏名	網谷羽真	学年	3年

§ 1. 概要

私は、2025年度ふじのくにグローバル人材育成事業で米国に「人が危険な時にとる共通の行動」を知るために7週間留学に行きました。米国で参加した活動での経験について、目的、内容、結果、今後の展望について以下に詳細を記します。

§ 2. 留学の目的

私は災害復興のボランティアを始めてから、多くのボランティアの方や被災された方などに会ってきました。活動中は家具の撤去や壊れた壁の撤去など多くのことに挑戦しました。電動工具を使う機会があり、何度か危険なこともありました。私はその『危険』ということが死にも繋がると知り、多くの人が安全に電動工具を使用できる世界を創りたいと思いました。そのため今の高校に進学し機械について学んでいます。しかし、機械について学ぶだけでは私の目標は達成することが出来ません。私の通う合気道の道場では技をかけられた際『大きく息を吐く（吸う）』『叫ぶ』『痛いところを押さえる』それぞれ違う行動をします。これらの痛みが生じた際に人がとる行動は国によって違うのか、共通の行動はあるのかを知りたくなりました。そこで、私は『人が危険な時にとる共通の行動はあるのか』をテーマに2025年度ふじのくにグローバル人材育成事業に応募し、採択されました。私は留学に向け以下3つの目的を持ち臨みました。

① 小学生のころから続けているため理解のある武道教室にて、合気道とブラジリアン柔術の道場の練習に参加し、技をかける直前直後の行動を知る。

② 夢を持つきっかけとなったボランティアは日本と海外では活動意識が異なるため、食事提供ボランティアとして活動することで、日本のボランティアとの意識の違いを知る。

③ UC Davisにて電動工具による事故や日常に関する街頭アンケートを実施することで、性別、年齢、国による結果の違いを知る。

§ 3. 活動内容

① 現地では『Aikido Center Sacramento』と『Kaiju BJJ Academy』の二つの道場に受け入れてもらいました。この2つの機関では、自身が技を掛けたり掛けられたりすることに加え休憩中は練習の様子を撮影しました。また、体験したり撮影したりする中で危険だと思ったポイントをあげ練習をしました。

② 『Davis Community Meals and Housing』というボランティア活動では現地の人に交じり、十分に食事のとれない人に食事と温かく食事を食べられる場所の提供をしました。活動中にほかのボランティアの参加者との交流の中で『ボランティア』というも



のがどのような存在なのかなどの意見交換をしました。

③ デービス市内の UC Davis にて学生を中心に電動工具による事故や日常に関する街頭アンケートを実施しました。さらに市内のホームセンターの方に許可を取り従業員の方にもアンケートを取らせていただきました。

§ 4. 結果

① 合気道もブラジリアン柔術も両者ともに共通して技を掛けられる前に備えていることがわかりました。その『備え』というのは、技を掛けられた後にする反撃や技からの逃げ方を意識した動きをするということでした。

② 日本でボランティアに参加をした際に聞こえた声は『誰かのために』という理由が目立ちましたが、米国でのボランティア参加者は『自分のために』という理由を挙げていました。

③ 200 件以上得られたアンケート結果では電動工具の使用経験がある人は約 66%、そのうち事故の経験がある人は約 22%という結果になりました。事故が起きた際にとった行動としては、パワードリルをうまく握ることができず手を痛めパワードリルを離してしまったということがありました。次に日常でけがをしそうになった例としては、物が落下した際に手で防ごうとすることや刃物が刺さりそうになると手を引くという結果を得ることができました。

§ 5. 本事業での活動を通して

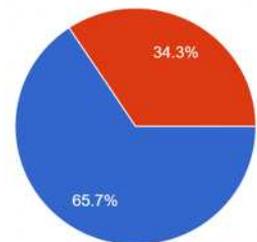
本事業の活動に共通する目的であった『人が危険な時にとる共通の行動はあるのか』という問いに対し、人の動きを『反射』として捉えることが『世界で共通した行動』に結びつくことができました。この結果は米国で若い年代が対象となっている比率が高いため、別の年代や後進国ではどのような結果が変化するのか、ということが次の問いとなりました。来年度からは室蘭工業大学で学ぶこととなりますが、継続して『誰もが安全に使いやすい電動工具の開発』という夢を叶えられるよう勉学に励みたいと思います。加えて、本事業での活動を通して新たに出た疑問を解決するために次の留学にも積極的に挑戦したいです。

他にも留学で得られたことがあります。留学期間中に誕生日を迎えた私はアメリカで『成人』となりました。年齢が大人になっただけでなく、初めての環境で多くのことに挑戦することで人としても成長することができたと実感しています。また、苦手を克服する努力も私の人生に欠けていたと気付きました。『留学』は苦手な英語、他者とのコミュニケーション等多くの壁を乗り越えることを身につけてくれました。書類の作成には先生や両親など大人の手を借りる必要があったこと、同じ 2 期生の仲間がいたこと、スポンサー企業からの支援があったことなどが挙げられます。多くの人のサポートが有り『最後まで諦めてはならない』と思えたからです。プレッシャーに押し潰されそうな 7 週間でしたが、私の人生を大きく変化させる『留学』となりました。



Have you ever used a power tool? 1

204 件の回答



When you used a power tool, have you ever been injured or almost go injured?
14 件の回答

